

宮沢地区公民館だより



令和5年3月1日
発行：宮沢地区公民館
電話・FAX22-0433

宮沢地区新春作品展

「え、これ手作り作品？」

2月24(金)～26日(日)、宮沢地区公民館で開催 300名を超える来場者

宮沢地区公民館前で、男の子が出迎えた。「おはようございます」と挨拶を交わしても返事がない。動かない。案山子(かかし)である。

昨年は、コロナ感染症が増加傾向にあり残念ながら急に中止せざるを得なかった。今回は、児童の書道はじめ、絵画、写真、パッチワーク、生け花、バッグ、つる細工、つるし飾り、木工品、美術品など、56人、250点以上の多彩な作品が展示された。工夫を凝らした力作ばかりで、鑑賞者は足をとめスタッフに質問していた。特別企画「おもしろ歴史トーク」は、講師の佐藤良彦さん(宮沢地区歴史保存会)が、芭蕉と清風の交わりに始まり、俳句から推察した二人のバトル(喧嘩)を解説した。しかし、芭蕉は尾花沢に10泊した。時代背景と現代を重ね合わせた講演に、聴講者は清風の文化人としての人柄にふれていた。三日間、晴れ、曇り、なごり雪でした。

作品展示者の方、準備に協力頂いた方、ご来場の方々、ありがとうございました。

抽選で景品が当たるスタンプラリーは、3月3日抽選会です。当選者には、あとで連絡し



居心地の良い場所？

一年生館長の日記

2月9日(木)9時～14時、パッチワーク教室
(天気)小雪

(館長)「五十嵐さん、今日の参加者、何人来てましたか。」(五十嵐)「17人、全員です。」

「え、え、全員。全員ですか。7～8人の団体じゃないよ。17人だよ。」

帰り際に、山口指導員に「今日の参加者17人、全員ですよ」と話した。(山口指導員)「公民館は、暖かく居心地良いよ。(パッチワーク)楽しいと思うよ。いい場所だよ。」と、あった。パッチワークの魅力が山口指導員はじめ、事務局の方がこれまで丁寧に対応してきたから17人も集まっている。この豪雪の時期。地区公民館職員は、利用者の事を考え準備する役割がある。

2月16日(木)9時～14時、パッチワーク教室
(天気)曇りのち晴れ

事務局の小林さんが、「今日2月8日できなかった針供養をするので、館長さんから説明をお願いします」とあった。急いで、インターネットで検索する。いや今日は、11月開催した教室の閉講日、終了の言葉も考えなければ。

10時35分。(館長)「針供養は、これまで硬い生地に刺してきた針に対して、最後は柔らかいところで休んで下さいと言う気持ちで、ものを大切に使うことを教えている習慣と思う」と話をした。

閉講の言葉を話した。(館長)「青春とは、人生の或る期間を言うのではなく心の様相をいうのだ。」私の好きな詩を読んだ。山口指導員から、「パッチワーク教室の指導というプレッシャーが段々なくなっていった。参加者はそれぞれ上手です。楽しく行うことを考えてきました」とあった。昨年11月から教室の開催は12回。教室を開催した冬季間、吹雪の日はなく晴れと曇りだけ。女性パワーなのか。

口癖：毎日、毎日、勉強になるね。

新型コロナウイルス感染状況により、予定が変更や中止となる場合があります。また、参加の際はマスク着用にご協力ください。

初めての方も大歓迎！

吹き矢大会参加者募集

日時：3月7日(火)
午後1時30分～4時

場所：宮沢地区公民館2階

申込み：3月3日(金)まで

宮沢地区公民館 22-0433

※吹き矢の効能ってスゴイんです！



宮沢宝来吹矢隊「吹矢、ほらを吹いて健康」吹矢練習会

・毎週火曜日 13時30分～15時30分
3/14、28 場所：宮沢地区公民館

ちょっと、待って！

特殊詐欺の被害に遭わないために

2月13日(月)午前10時30分頃、市内の方に、尾花沢市役所職員を名乗る男性から、「高額医療費の還付金があります。書類を送っていますが、返事がなかったので電話しました。銀行はどちらをお使いですか？通帳と免許証を持ってきてください。・・・」など、不審な電話がありました。不審に思ったので被害に逢うことはありませんでした。このような内容で市役所から電話することはありません。もし、電話があったら・・・

(1) 自宅の電話は、留守番電話に設定し、市役所や警察署に相談する。

犯人からの電話にでてしまうと、ことば巧みにだまされてしまいます。

(2) 電話を受けて、相手が知り合いではない不審な人間だと思ったら、相手の電話番号を控えて、相手の話のにらないうで、相手の話を切ってください。すぐ警察に通報してください。



◆◆防犯協会宮沢支部◆◆

宮沢地区の人口と世帯

(2/1現在)(前月比)
男 810人 (-3)
女 801人 (-5)
計 1619人 (-8)
世帯数 584世帯 (-3)



❖❖ 気持ちまで、明るく ❖❖

2月3日(金)～4日(土) 三菱HCキャピタル(東京都)

尾花沢市除雪ボランティアセンター主催(社会福協議会)



市野々の菅藤壽さんは、「自分では、もう雪掘りできねえ。ありがたい。台所の窓が明るくなった。助かる。」丹生の石塚ミヨ子さんは、「今年は、雪の量が多い。雪払ってもらって大分少なくなった。助る。」三菱HCキャピタルは、社会貢献活動として4年ぶりのボランティア活動。開始式で竹田専務から「微力ではありますが、少しでもお役に立てば、と思い32名(男20・女12)が東京から参加しました。受入れありがとうございます。二日間、精一杯力を合わせてやりましょう。」とあった。8人の4班編成に分かれて、丹生2、行沢、押切、市野々でスタートした。3日(金)の積雪深 205センチ(市の任意観測地点の押切集落)。活動員は、東京都、千葉県、埼玉県、鳥取県など、ほとんど雪のない都市部の出身で、雪かきボランティアは初めて。市野々集落では、集落の指導員と宮沢雪プロジェクトのメンバーから、作業開始前に先ず屋根の落雪がないか危険個所の点検を行う。スコップは、雪の塊に切り込みを入れて四角にして運ぶ。隣との作業間隔を十分とる等指導を受けた。はじめは日頃のトレーニングになると言っていた女性は、「これが毎日かと思うと、重労働です。やっぱり大変です」と汗をかいていた。

ボランティアセンター事務局の二藤部さんから、開始式で活動員に「地域の方言を一つ聞いて来ること」と宿題が提案されていた。公民館に帰った活動員は、集落協力員から「けー。くうー。ねまれ。」一体それ何。「召し上がって下さい。食べます。ゆっくり、くつろいでください。」「え、全然わからない」と、ビックリしていた。

宮沢地区振興連絡協議会から、山形名物の力(玉)こんにゃくが届き、ふうふう息をかけて「うめえ」と言いながら食べた。花笠の湯の終了式で、石山区長は、「三菱HCキャピタルの人事部の方に申し上げます。是非、尾花沢市に支店の開設を上司に話をされますようお願いいたします」と要望したところ、「今のところ無理です」と、返答があり会場は爆笑。三菱HCキャピタルのボランティア活動員から「ありがど様ス」の御礼の言葉がありました。

今回の活動に対して、区長はじめ集落の協力者と雪プロジェクトからの参加者は、二日間で延べ67名でした。ご協力ありがとうございました。



押切



市野々



丹生2



行沢



ふるさと物語⑩ 洪水を助け(その1) 中沢川砂防工事

大正2年(1913)旧暦7月27日、歴史に記される大洪水が宮沢を襲った。『倉金正蔵日記』(正蔵の倉金昭善氏祖父で明治31年一昭和18年まで毎日付けていた日記)によると「午後より東風頗る激しく、降雨又繁し赤井川、丹生川出水最も甚だしく川筋の橋梁盡く落下流れ田畑の損害廣大なり、丹生川出水二丈余(6.6m) 古老近年見ざる洪水なりと言う。」と記されている。中沢の古老の話にも中沢川が氾濫し現在の公民館の上方から真っ直ぐに高橋方面に流れたと言う。そのため現在もあの広い田圃の下層は石魂だと言う。

そこで、当時郡会議員であった大貫常蔵氏(大貫寛一郎氏祖父)が中心となって、国、県に洪水対策を陳情した。当時の小田切知事の治水への熱意もあって、大正3年に県内初の治水が予算化された。同5年4月に着任した添田敬一郎知事は前任地山梨県では治水知事の異名をとっていた。12月県議会で砂防事業費1万5千円が通過し、内52%の7千8百円が中沢川砂防に当てられた。それで大正5年(1916)が中沢川砂防の着工年度となり、その後は各年5万円余が予算化されて大正9年に完成をみる。この県初の砂防工事は歴史的価値の高い構造物として平成22年「国の登録有形文化財」に登録された。(下写真)

『山形県砂防事業のふるさと丹生川をたずねて』村山建設事務所編に、17歳で工事に出役した横山直太さん(押切)の話がある。約300人が働いていて日当は、私は連絡係で24銭、翌年は50銭。人夫は70銭一円10銭(当時米1俵5円)。半月ごとに大貫常蔵氏宅で受け取った。丈夫な人は25貫(90キロ)のセメント樽(木の桶にセメントを詰めた)を運び割増賃金だった(片倉宗太郎さんなど)。木工沈床の木材は大貫常蔵氏山林より切出した、と話す。工事は、急流を安定させ、同時に河床の土砂が流出し下流の川底を押し上げる(天井川)を防止するために4ヶ所の堰堤と木工沈床を設置した。また、中沢川右岸の山裾を急流がえぐって多量の土砂を下流に流出するのを石積み護岸を施工して防止した。(写真)



私たちは県河川砂防課に足を運び文化財認定を強く要請したのだった。

現在、中沢川上流に穴開きダムが設置され、中流では小型水力発電所が建設中である。



文責 宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄

子どもたちの安全を願って

防犯ブザー贈呈

2月15日(水)、4月から宮沢小学校へ入学する4名の皆さんに、防犯協会宮沢支部より防犯ブザーが贈呈されました。菅野支部長より一人ひとりに手渡され、「事故などに気を付けて元気に小学校に通ってください」のあいさつに「はい!」と元気に返事をしてくれました。防犯ブザーの贈呈は、子どもが安全に登下校できることを願い毎年実施しています。

子どもたちの安全を地域みんなで見守っていきましょう。

